

生徒の主体的な取組の推進のために

冬休みに生徒会の本部役員が3学期以降の準備をするために半日活動をしました。その冒頭に20分程度の講話をさせてもらいました。その内容について共有できればと思います。

「リーダーとして大切にしたいこと」というテーマで最初自分が校長として心がけていることを確認しながら話しました。それは、「生徒と教職員の命と人権を守る」、「判断、決断をしっかりと行い、わかりやすく説明する」、「笑顔で人と接し、人間関係を良好に保つ」、「自ら学び、知識や教養を高める」、「人として尊敬されるように『人間力』を高める」の5点です。まだまだできていないことが多く恥ずかしいですが、私が心がけていることです。

次に生徒会役員に期待することとして6点話しました。まずは、リーダーは自覚から始まるということです。周りの生徒は生徒会役員として見ています。信頼を得るには、生徒会活動以外の行動も問われています。次に、しっかり見通しをもつということです。ゴールを明確に持つことです。その上で、短期・中期・長期のプランを見通せると、取組の優先順位もつけやすくなります。長期目標とは、次の代に期待することも含めません。このように未来志向で考えていくことがとても大切です。3点目として、生徒の声を聴く・拾うということです。これは意見箱という形で実行してくれていますが、様々な形で聞くことが重要です。学級討議でも普段意見を言わない人(言えない人も含む)の意見を拾う仕組みや姿勢が大切であり、声の大きい、発言力のある人の声だけで物事を進めていくとうまくいかないこともあります。4点目は、○か×、AかBの二者択一でなく、○と×の間の△や□や、A[^](Aダッシュ)のようなところで、納得解・合意解を求める力をつけるということです。合意形成をしながら答えを考えていくことが大切であり、賛成・反対を超えた修正案を作れることが大事です。その場合、最上位の目的やねらいから考えていくことが大事で、手段・方法だけで議論をするとうまくいきません。5点目は、自信をもって話すことです。生徒会役員は人前で話すことが増えますが、できるだけメモを見ずに自分の言葉で丁寧に話してほしいものです。最後は人権感覚を高め、生徒会としてもいじめの問題に主体的に取り組んでほしいということです。学級や学年の中で困っている人がいれば、その人に思いを寄せてほしいと思います。これらのことを話しましたが、メモを取りながら熱心に聞く生徒が多く、とても頼もしかったです。また、3学期の始業式での東出副会長の説明は、とても堂々としたもので、やる気と思いが全校生徒に伝わっていたように思います。

「学校は生徒が主人公」。昔から使われている言葉です。最近では、「生徒ファースト」という言葉が使われていますが、生徒がより良い方向に、自分たちの力で主体的に取り組めるよう今後も様々な仕組みを考えしかけをしていきたいものです。(2024.1.15)